

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）  
 大学院生研究  
 2003 年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院		文学研究科	地理学専攻
指導教員	所属・職名		氏名	
	立教大学文学部・教授		豊田 由貴夫 印	
自然・人文の別	自然	・ <input type="checkbox"/> 人文	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
研究課題	技芸の継承と貨幣経済の進展：西インド門前町ナートドローラーの絵師集団の事例より			
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏名	
	文学研究科・地理学専攻・博士後期課程1年		八幡 綾 印	
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏名	
研究期間	2003 年度			
研究経費	200 千円			

研究の概要 (200~300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の目的は、西インド・門前町ナートドローラーにおける、寺院と諸職人集団との間につむがれてきた世襲的サーヴィス授受（ジャジマーニー）関係の近年の変化を明らかにすることにあつた。SNM を中心とするジャジマーニー関係は、経済的側面のみならずその機能を限定することが出来ず、人々の社会的地位の再生産という側面を持つこと等が明らかとなった。近年の貨幣経済の進展等の影響を受けて、実質的側面の薄れた形式的な関係となっていたにもかかわらず、当地でジャジマーニー関係が維持されてきたのは、こうした側面の影響が大きかったと思われる。また、今回収集した、絵師集団の多様な交換関係のフィールドデータは、ジャジマーニー関係が、地域に存在する多様な交換関係の一つにすぎないという近年の先行研究を補強する結果を示している。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 交換関係 ] [ 西インド ] [ 近代化 ]

## 研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

西インド・ラージャスターン地方の門前町ナートドワーラーでは、代々専門の絵師によって「寺院を飾る壁掛け画」が描かれてきた。ナートドワーラーの町は、ヒンドゥー教の一派であるヴァッラバ派の本山であり、この町のシュリーナート・ジー寺院(Sri Nath-ji Mandira、以下 SNM と略)と絵師のあいだには、分業に基づく世襲的交換関係である、サーヴィス授受(ジャジマーニー)関係を観察することができる。本研究の目的は、この町における寺院を中心とするジャジマーニー関係の近年の変化を明らかにするとともに、ジャジマーニー以外にもみられる、多様な交換関係の実態を明らかにすることにあつた。それはまた、現地社会が貨幣経済の影響をどのように受容・適応し、克服していったのか、その葛藤を明らかにしていく上でも大きな意義をもつと考えられる。

筆者は、立教 SFR の助成を受けて、2003 年 7 月から 8 月にかけて、約 1 カ月間のフィールドワークを行うことが出来た。フィールドワークにおいては、絵師を中心とする諸職人集団の成員の下へ出向き、聞きとりを行うことに主眼をおいた。その結果、SNM を中心とするジャジマーニー関係は、パトロン＝クライアント関係の経済的側面にその機能を限定することが出来ず、人々の社会的地位を再生産したり、人々の信仰心を満足させる側面を持つこと等が明らかとなった。近年の貨幣経済の進展等の影響を受けて、実質的側面の薄れた儀礼性の強い形式的な関係となっていたにもかかわらず、ナートドワーラーにおいてジャジマーニー関係が維持されてきたのには、当地のジャジマーニーに存在するこうした側面の影響が大きかったと思われる。

さらに、諸職人集団は、SNM とのジャジマーニー関係を中心としながらも、彼らそれぞれの交換関係は多様であること等がフィールドワークの過程で、具体的なデータを伴って明らかとなつていった。ジャジマーニーをめぐるこれらの諸特徴は、筆者が継続してフィールドワークを行ってきた絵師集団の交換関係の分類・分析に良く表れている。今日、絵師にとってのパトロンは、①おもに SNM をはじめとするヴァッラバ派の寺院、②ヴァッラバ派の信者、③門前店、④商人の四者である。

また、今回の調査によって、初回(1997 年)調査で筆者が疑問点としてあげた、絵師たちの口から多くの祭名がでてくる理由については、ある程度まとまった結論を出せたのではないかと考える。その成果は八幡[2003]の関連暦およびそれに対する説明としてまとめられた。つまり絵師はどの祭りのときにどういう行事があり、その中で自分たちにどういった役割があるか、というように、SNM に対する仕事をそうした祭との関連で記憶していたのである。絵師にとって SNM との関係は単なる経済的なものではなく、地域社会の祭りなどが関わってくる社会的な関係でもあつたのである。

ナートドワーラーの町に住む絵師集団は世襲的に SNM に対して、慣習的な仕事と臨時の仕事の請け負い、報酬として供物のお下がり *prasad* 中心の物品を受け取っている。しかしながら、最近絵師の人口が増加したことに加えて、SNM からの絵画の注文が減っている。また近年のインフレや工業化によるプリント画の参入によって、絵師たちは新たなパトロンを開拓することに、より積極的となっている。さらに現在は細密画や SNM のご神体であるシュリーナート・ジー(現地の人々の愛称ではシナーギー)の肖像画の需要

## 研究成果の概要 つづき

の拡大に伴って、SNM 以外からの需要が大きくなっている。総じて彼らの現金収入の割合は増加している。

18-19 世紀における世襲的サービス授受間関係は、今日よりも実質的側面が非常に強かったであろう。絵師集団に限定しても、当時は SNM の管長や、管長を通じての藩王からの多くの注文があり、絵師は十分な報酬を得ていた。しかし、パトロン側の意識の変化、藩王層の凋落などによって、今日ではかつての絵師と SNM との交換関係で重要な位置を占めていた、このようなその都度の注文はほとんどなくなってしまったという。その意味においては、主としてジャーティ間分業に基づく世襲的サービス授受関係(ジャジマーニー)は、たしかに都市化、近代化によって縮小しつつあるといえる。ただし前述したように、その方向は単純ではない。

絵師と都市の商人との交換関係は、貨幣経済の進展を示す最良の例であろう。寺院とのジャジマーニー関係が、20 世紀初頭から徐々に絵師にとって生計の手段となり得なくなると以降、絵師は信者から門前店、そして商人との交換関係への比重を高めてきた。

特に、交通網の整備や近代化によって、ホテルやレストランなどの整備が進み、大勢の観光客がインド各地を訪れるようになると、更に、観光客向けの土産物屋、ホテルなどの増築、整備がなされ、貨幣経済が活発化する。商人との交換関係はこうした中で台頭してきた。寺院とのジャジマーニー関係において儀礼性の強かった絵師の画が、商人との取引においては単なる商品として扱われる。そのように捉えると、絵師と寺院とのジャジマーニー関係はやはり、儀礼性をその本質にもっているのである。

ただし、前述したように参拝客の増加はまた、パトロンである SNM の役割を増す結果ともしたが、SNM 管長をはじめとするパトロン側の意識の変化は、パトロンとしての寛大な役割を縮小させ、絵師の生計に大きな打撃を与えた。つまり、今日の SNM を中心とした主にジャーティ間分業に基づく世襲的サービス授受関係は、儀礼的には大規模なものであるが、諸職人集団の生計の比重はむしろそれ以外の交換関係に重点が置かれるようになったのである。

以上みてきたように、4 つの交換関係は、絵師一人一人がそのどれかにおさまるべきタイプの関係ではなく、むしろ一人の絵師がこれら 4 つの交換関係のいくつか、あるいはすべての関係を経験していることが普通である。こうした世襲的な慣習的交換関係と市場交換の競合、併存は、それまでの絵師個人あるいは寺院を媒介とした交換以上に、より広い市場の枠組みのなかへ彼らの画が流通しはじめたことを示している。絵師とパトロンとの関係は今日、ますます複雑な傾向を見せているといえよう。

絵師集団の多様な交換関係のフィールドデータは、ジャジマーニー関係が、地域に存在する多様な交換関係の一つにすぎないのであって、ジャジマーニー関係のみが全体を統括するものではないということを明示している。同時に、「貨幣経済の進展と技芸の継承」という、今日、南アジア各地に住む技芸集団に共通の問題も浮きぼりにしたのである。そのような問題にどのように向き合っていくのかは、筆者の今後の研究の課題である。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版者、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①  
八幡綾「西インド門前町ナードワラーの絵師集団：慣習的交換関係の変容」『史苑』64(1)、2003、25-54。

②なし

③なし

④  
(学会発表) ・立教大学史学会大会、2003年6月、立教大学5号館  
・インド考古研究会、2003年9月、八王子セミナーハウス  
  
・日本文化人類学会第38回研究大会・2004年6月5-6日開催予定、東京外国語大学(個人自由論題発表予定)  
  
・日本南アジア学会第17回全国大会・2004年10月2-3日開催予定、一橋大学(個人自由論題審査待ち)

(研究報告書)  
八幡綾「『近代化』の進展と『伝統』を継承するということ」『生活世界から捉えるグローバル・ローカル化の動態に関する地域間比較研究』立教大学大学院地理・人類学研究室(2004年6月発刊予定)